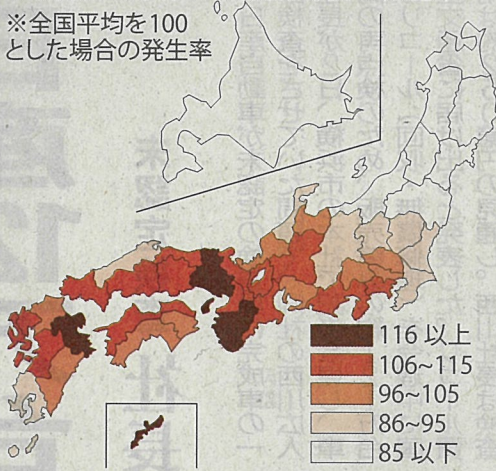


## 40歳以上の女性の大腿骨骨折の発生率

※全国平均を100とした場合の発生率



116以上
106~115
96~105
86~95
85以下

# 大腿骨折西日本で高率

## 骨粗しょう症進行 食習慣影響か

大阪医大など調査

骨の密度が下がる病気「骨粗しょう症」が進むと生じやすい「大腿骨骨折」の人口10万人当たりの発生率を都道府県別に集計すると、中部から九州にかけての西日本で高かったとの調査結果を、大阪医大や近畿大の研究グループがまとめた。地域差は最大で2倍程度。食習慣の違いが影響している可能性があるといい、研究グループは要因分析を進める。

【野田武】

玉置淳子大阪医大教授(疫学)らは、公的医療保険を使った医療の受診記録に当たる診

療報酬明細書(レセプト)の情報をもとに、40歳以上の10万人当たりの発生率を集計した。全国の患者発生率は、女性が10万人当たり299人、男性同89人だった。女性が多いのは、骨の細さと骨形成に関わるホルモンが閉経により減少するため。発生率は全国平均を100とすると、女性で最も高かったのは兵庫で120。和歌山(118)、沖縄(同)、大分(116)、奈良(同)と続いた。男性は高い方から順に、沖縄(144)、長崎(1

26)、和歌山(同)、佐賀(124)、兵庫(121)、鳥取(同)。一方低いのは男女とも秋田、青森、岩手、宮城、北海道の順で、63〜78にとどまった。玉置教授は「大腿骨骨折のリスク要因は、BMI(体格指数)の低さ、喫煙、多量飲酒、ビタミンDの不足。発生率の高い地域の人には、食生活に特に気を配ってほしい」と話す。ビタミンDは、シラス干し、サンマ、干しシイタケ、イクラ、あん肝などに多く含まれる。